



ATOS 声明書 Antimony Trioxide Stakeholders

PET 容器におけるアンチモン溶出問題に関する ATOS 声明

2005 年 7 月から 2006 年 3 月にかけて、一部のメディアが PET 容器飲料水にアンチモンが溶出する問題を取り上げました。ATOS はこれらの記事の中には PET とアンチモンについて疑わしい内容が多数あることを指摘したいと思います。

三酸化アンチモンはミネラル水容器に使用される PET 樹脂を製造する際の主要な触媒です。PET はミネラル水容器の優れた材料であることを実証してきており、非常の多くの消費者が毎日安全に使用してきた歴史があることを強調致します。

ハイデルベルク大学のカナダ人科学者 William Shotyk 教授は Royal Society of Chemistry's Journal で科学論文を発表しました。Shotyk 教授の研究は産業界では知られていますが、発表された論文はメディアによって誤った解釈がなされています。Shotyk 教授はこの研究の動機について、自然界の地下水に大量に存在するアンチモンを研究するために PET 容器飲料水を用いることはできないと主張することにあつたと述べています。教授はまた、今日まで実験室で測定した PET 容器飲料のすべてでアンチモン濃度は飲料水の安全基準を大幅に下回っていると強調しました。

欧州の飲料食品業界は飲料水に関する EC 指令 2003/40/EC に従って 0.005mg Sb/l の基準値を採用しています。WHO(世界保健機関)が 2003 年に消費者安全係数を引き上げた上で、飲料水中のアンチモン濃度を 0.005mg/l から 0.02mg/l に緩和したことを思い起こしてください。この WHO 値は一生消費しても健康に重大なリスクを及ぼさない成分濃度を示しています。欧州食品安全局は食品中の三酸化アンチモン溶出限界値を 0.02mg/kg から 0.04mg/kg(Sb 換算)へと 2 倍に引き上げました。Shotyk 教授の測定した最大値は 0.00063mg/l です。イギリス食品基準局も Shotyk 教授の測定値が安全基準を大幅に下回っているとコメントしています。

国際酸化アンチモン協会 (IAOIA) は PET 容器の製造に三酸化アンチモンを使用してもヒトの健康に有害ではないことを確認するための EU によるリスクアセスメント作業の枠組の中で科学的な研究を支援しています。

ATOS の正式名称は三酸化アンチモン関係者グループであり、三酸化アンチモンの生産者とユーザーで構成されています。ATOS は EU による三酸化アンチモンのリスクアセスメントに必要な科学情報を開発するために設立されました。ATOS は IAOIA、欧州 PET 業界、PlasticsEurope(欧州プラスチック工業会、旧 APME)、European Plastics Converters(EuPC ヨーロッパプラスチック加工販売協会)、Comite International de la Rayonne et des Fibres Synthetiques(Cirfs 国際レーヨン合成繊維委員会)、Euratex(欧州アパレル繊維協会)、UK Textile Association(英国織物協会)などの関係機関に支援されています。情報をご要望の際は IAOIA 事務局長 Karine または PlasticsEurope の PET 健康安全環境グループ議長 Mike Neal に連絡下さい。

2006 年 3 月 20 日